



国内PLMアプリケーション市場予測を発表

2013年の国内市場は1,453億5,400万円、前年比成長率5.9%
国内市場の2012年～2017年の年間平均成長率は3.9%と予測

IDC Japan (以下、IDC) は、国内 PLM (Product Lifecycle Management) アプリケーション市場予測を発表した。

PLM アプリケーションとは、製品ライフサイクル管理の実現における中心的なアプリケーションで、「企画／設計～開発～試作～テスト～量産開始」までの工程で、製品を設計して生産するまでの範囲における製品情報を一元管理し、それに関わる業務プロセスを IT でサポートするものだ。PLM アプリケーション市場は、メカニカル CAD、メカニカル CAM、メカニカル CAE、コラボレーティブ PDM、その他エンジニアリングアプリケーション、製造アプリケーションの機能セグメント市場から構成されている。

IDC の調査によると、2013 年の国内 PLM アプリケーション市場は 1,453 億 5,400 万円、前年比成長率は 5.9% と見込んでいる。同市場において構成比が最も大きいのはメカニカル CAD/CAM/CAE 市場で、2010 年以降市場の拡大を続けており、2013 年では前年比成長率が 6.4%、市場全体の 57.9% を占めるまでに至っている。その中でも特にメカニカル CAE の前年比成長率が 9.4% と非常に高くなっている。その背景について、IDC は、近年、機械系の「ものづくり」において、ソフトウェアによって制御されるモジュール

の比率が急速に拡大する中で、機構だけでなくソフトウェア制御も含めて機能安全性などを評価するためのシミュレーション機能に対する需要の高まりがあるとみている。

また、国内市場の 2012 年～2017 年の年間平均成長率 (CAGR: Compound Annual Growth Rate) は、3.9% で推移すると予測している。機能セグメント別の CAGR に着目すると、市場全体の CAGR を上回るのは、コラボレーティブ PDM 市場 (CAGR: 4.8%) とメカニカル CAE 市場 (CAGR: 6.1%)。グローバルシフトを加速する製造業では、中国や ASEAN 諸国を中心とする新興国需要への対応に加えて、新興国における政治的リスクや自然災害リスク、原材料価格の高騰などの不確実性への対応が深刻な経営課題となっている。こうした中、設計／開発／生産の各リードタイムの短縮や部品の共通化による調達コストの削減につながる製品情報の共有、またグローバルで稼働する ERP や SCM システムとのシームレスな情報連携を可能にする PLM アプリケーションの果たす役割は大きく、今後同市場は持続的な成長が続くと分析している。

国内製造業は企業規模に関わらず、グローバル化を加速する中で、海外市場向けの製品に関する設計機能の海外シフトや現地で売れる製品開発のための情報収集やマーケティング、ODM パートナーとの連携強化によるリードタイムの短縮、顧客満足度／ロイヤリティ向上のためのサポート体制の強化など、様々な喫緊の課題を抱えている。IDC ソフトウェア&セキュリティ・シニアマーケットアナリストの入谷光浩氏は「エンジニアリングチェーンの最適化のみならず、サプライチェーンとの融合が課題となる中で、PLM ソリューションには、生産計画／実行、物流／在庫管理、販売管理、カスタマーサービスといった業務の水平統合を支援する役割が期待されている。今後、PLM アプリケーションベンダーおよびプロバイダーは、顧客接点や業務ノウハウを補完するためのパートナーシップを積極的に検討する必要がある」と語っている。

● お問い合わせ先 ●

IDC Japan (株) セールス
TEL : 03-3556-4761
E-mail : jp-sales@idcjapan.co.jp
URL : <http://www.idcjapan.co.jp/>